

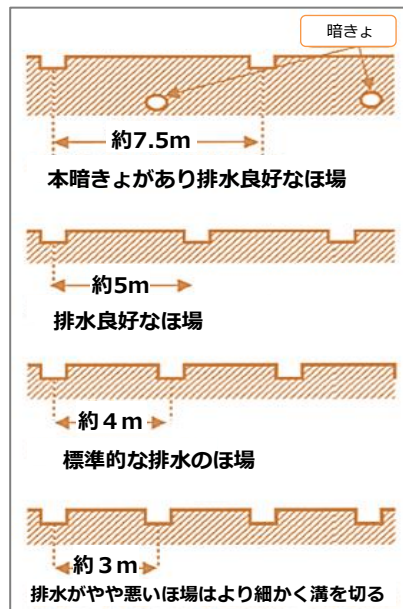
稲刈りが終わったほ場から 速やかに排水対策を行いましょう！

麦の栽培において排水対策は最も重要な技術であり、湿害を回避することで収量・品質向上に繋がります。排水対策を徹底することにより、麦の出芽や生育が良くなるだけでなく、除草剤や肥料の効果も高まります。

1 まずは、排水溝の設置から

水稻収穫後は、排水溝（明きょ）を設置し、雨水が流れるようにしましょう。排水溝の間隔は、排水条件に合わせて適切に設置しましょう（右図参照）。

ただし、ほ場が乾くまでに無理に作業を実施するとほ場を荒らすこととなります。天候や土壌状態を確認し、排水が悪い場合は、ほ場が乾くまで無理に作業を実施せず、ほ場が乾いてから実施しましょう。



ほ場の排水状態とうね幅（例）

2 排水溝はつなぎ、 補助暗きょも設置しましょう！

設置した溝（明きょ）は、つなぎ目をしっかりつなぎ、確実に水口から水尻に排水するようにしましょう。あわせて、弾丸暗きょなどの補助暗きょを設置し、溝（明きょ）とつなぐことで排水性の向上に繋がります。また、サブソイラー等による心土破碎を実施することも排水性の向上に有効です。



つなぎ目はしっかりつなぐ！ 弾丸暗きょは明きょとつなぐ！ 心土破碎で排水性向上！